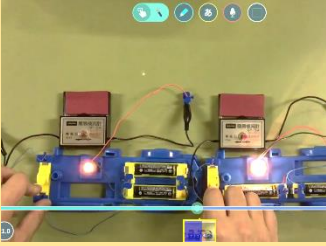


ICTの活用

◆観察、実験の手順を示す



◆結果を分析する

第1回			第2回			第3回			第4回		
4	0	5	6	8	40	12	10	5	75	7	6
5	75	7	6	7	19	8	21	5	6	0	10
7	75	8	0	10	35	7	20	5	5	0	4
5	0	4	15	7	56	8	0	5	6	35	6
6	35	6	25	11	80	9	5	5	6	40	5
6	40	5	40	7	20	9	50	5	8	10	7
8	10	7	5	10	90	11	0	5	6	10	7
6	10	7	46	10	70	11	0	5	6	10	7

◆考えを共有する



◆考えをより伝えやすくする



【研究の成果と今後の課題】

成果

- ・単元を通して働かせる理科の見方・考え方をキーワード化し、児童と共有することで、問題解決の力が養われた。
- ・理科の見方・考え方を児童の言葉で表し、指導計画に位置付けることで、意識的に働かせている児童を価値付けることができ、主体的な学びにつながった。
- ・考察レベルを活用し、結論や根拠を書き切る指導をしたことで、明らかになった科学的現象を論理的に説明する力が身に付いた。

課題

- ・「高める」の過程で提示する事象が、本時の学びを確かなものにするために最適なものであるか検討する必要がある。
- ・児童が、学んだことを日常生活で活用することができるような学習過程の工夫について、継続して研究を行う。

【校長挨拶】

本校では令和2年度末に今回の研究大会会場校に指名されたことに伴い、令和3年度より主題研究を理科の授業研究に切り替え、実践を積み上げてきました。

本校児童は豊かな自然に囲まれた上矢作の地にありながら、観察、実験そのものの活動には意欲的に取り組むものの、自然事象の美しさ、巧みさ、素晴らしさ等を十分に感得することなく過ごしてきたように感じています。本校の研究の取組開始とほぼ同時期に1人1台のタブレット導入が重なり、従来の理科の授業で行ってきた事象提示、個々の視覚・聴覚等によるデータの収集、観察、実験の結果・考察の手立て等々が大きく変わり、観察、実験の活動だけにとどまらない「理科の面白さ」に子どもたちは気づくようになってきていると受け止めています。そして、理科の学習を通して、身の回りで起こっている様々な事象・現象には必ず原因・理由があり、その一部を私たちは上手に活用しながら生活していることになげながら学習していることは本校の実践研究で大切にしてきたところでもあります。

本日ご覧いただいた子どもたちのプログラミング、理科を通して学ぶ姿から、皆様の忌憚のないご意見・ご指導を賜ることができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本校の研究を推進するにあたり、的確なご指導・ご助言、温かい励ましをいただきました岐阜県小学校理科研究会役員の皆様、東濃教育事務所、恵那市教育委員会をはじめ、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

令和5年11月1日

恵那市立上矢作小学校 校長 細江幸次

【研究同人】

令和5年度

細江 幸次	後藤 正英	原 誠	伊藤 亜季	加藤 廉	中嶋 捷太
堀川 明信	北原 弘志	榛葉 優香	今井 敬博	杉山 知聡	田中 大貴
浅井 克成	佐藤 和彦	喜多川 誠	ケビン	マテオ	

令和4年度

大島 紀子	石田 楓	山内 孝太	水野 麻梨子	原 隆典
-------	------	-------	--------	------

令和3年度

山内 裕行	藤掛 洋佑	桂川 絵里	鈴木 勝久	山上 徳子
-------	-------	-------	-------	-------

